

主 要 記 事

新入学及び進学 of 諸君

おめでとう	1
再びヨーロッパを訪れて	3
教務部長をお引き受けして	4
奨学生と奨学金	6
人事異動	8

新入学及び進学 of 諸君 おめでとう



学長 川上正光

大学院進学 of 諸君へ

春気漲る今日のよき日に、高度の学問探求を志す多数の諸君を迎えたことは、我々一同にとって大いなる喜びであります。この良き日に、日頃考えている事の一端を述べ、諸君の参考に供したいと思います。

本日問題としたいのは、これから我国が、若き理工学を志す諸君に何を望むかと言う事であります。この事を考えるに先立って、明治以後の我国の近代化の歩みを振り返って見ましょう。これについて、全くの私見ですが、私は次のように考えるものです。

〔第1段階〕明治初期、近代化を急速に、効率良く行なうために組織作りと、その中で働く人間の養成を行いました。これが現在のいわゆる官僚組織体制であって、この成功は世界の等しく認める所であります。

〔第2段階〕これは近年の事です、我国の生産技術が急速に進歩し、世界の超一流になったわけです。

〔第3段階〕これからの日本は一言で言うならば、独創時代に入るといえるか、あるいは入らなければならないのであります。換言すれば、我国は、これから独創的成果を挙げて、世界の文化に寄与する責任と義務とを負わねばならないものと強く信ずるものであります。

したがって、このような時代にある我国が、若き理工学を志す諸君に要望する事は、特にcreativity（独創性）の発揮であります。

先に、述べた、我国の近代化の第一、第二段階において、実は大変に大切なものを忘れて来たのでは無いでしょうか。それは、“独創性の涵養”であります。それでは、ひとつ独創性を発揮しようではないかと言って見ても、こればかりは、そう簡単に出来る物では無い事は良くおわかりの事と思います。だからこそ、大いにやりがいのある仕事だと言えましょう。

“どうしたら独創性を発揮出来るか”この問題は諸君の一生を通じて背負わされた“十字架”であると覚悟していただきたい。“意志あれば、道有り”といわれ

学部入学 of 諸君へ

麗らかな春の日に、希望に燃える諸君を本学に迎えたことは、関係者一同等しく、よろこびとするところであり、心からお祝いいたします。御家族のおよろこびもさぞかしとお察しいたします。

本日の諸君のよろこびは、長い努力のたまものといえるでしょうが、諸君はこれから先、何度となく険しい坂道を登らなければならないと思います。神（天）はよろこびを与えるときには、必ず苦しみをつけてくれるし、苦しみを与えるときには、必ずよろこびをつけてくれるといわれております。“人の一生は重荷を負うて、遠き道を行くが如し”という古人のことばを忘れないでほしいものです。

さて、ここで、青年学生の人生観の変遷を考えてみましょう。明治時代の学生の考えは、いわゆる立身出世主義で代表されるものでありましょう。

「男子志を立てて郷関を出づ、学もし成らずんば、死すとも還らず」と大声で吟じ、笈を負うて大学に進んだものは、皆、立身出世のためといってよかったでしょう。

「学士様なら娘をやろう、末は博士か大臣か」と俗歌にうたわれもしました。

当時のアメリカをみると、急激な発展途上にあつて、Rochfeller, Carnegie, Morganらのいわゆる Captain of Industry が近代資本主義の代表者として、名声を挙げ、実業謳歌の時代であり、わが国の青年は、この影響を多分に受けたものと推察されます。△

≡このように博士になろう、大臣、大将になろう、大実業家になろうと苦学力行したのは、必ずしも利己主義だけではなく、「俺が一つ日本をよい国にしてやろう」という心意気に燃えて、大いに天下国家を論じたわけでもあったのでしょう。

大正時代になって、ロシア革命が成功すると、当時多くの青年学生はマルクス主義に興味をもち、赤い議論に情熱を燃やしました。しかし彼等も40才を過ぎるとこのような考えを続ける人は非常に少なくなったものでした。

昭和時代に入り、大戦になると、滅死泰公、尽忠報国等のスローガンのもとに、10代の少年までが、特攻隊を志願するに至りました。何という変り方だったでしょう。

それも束の間、敗戦後はアメリカの影響を強くうけて、民主主義の名のもとに、“人生は自分の幸福をつかむものだ”となったように考えられます。果してこれでよいのでしょうか？

諸君！“人生とはどういうことか”，“自分とは何か”，じっくり考えて下さい。

次に、大学とはどういうところかを述べてみましょう。これを要約すると、次のとおりと考えます。

①大学は新しい知見を創造して、人類の文化に貢献し、福祉を増進する使命を帯びている。②大学は世のため、人のために奉仕する立派な人物を育成するところである。③大学は自分で生み出した知的産物を直接または間接に社会に還元する義務をもっている。等々。

諸君は本日より、このような大学で学ぶこととなったのであります。大きな夢と、誇りと、責任を持つ一個の人格として、考え方の多様性を知り、また特に学問を自ら学びとるよう大いに勉めて下さい。このように自覚する諸君を大学は紳士として遇するであります。

今や世界は、公害、エネルギー危機、食糧不足、環境破壊などに苦しんでいます。まさに、バーナード・ショウがかって喝破した「太陽系病院」そのものの様相を呈しています。この苦悩する世界を、光と美に満ちた栄光に輝く新世界に転ずることは、われわれ理工学に関係するものの使命であると信じます。

このように考えてくると、理工系の人々に一番足りないものは理工学や技術ではなからうと思います。一番大切なことは、人間の研究、つまり人間哲学であろうと思うものであります。哲学のない理工学者または技術者は単なるロボットに過ぎません。哲学があつて始めて、そこから真の独創性が生まれて来るものと思うのであります。

私は学長として、諸君の一人一人が、自らの光で世を照らし、自ら偉大なる世の奉仕者として大成するよう切に望むものであります。

夢多く、青春を謳歌する諸君、今日より自覚を新たに、大きな希望をもって、ともどもに励もうではありませんか！“若き日の夢は尊し、その夢のうつつとなりて、世の進みゆく”（よみ人知らず）

◆ているように、本当にそう思つて努力すれば、必ず独創的な仕事出来るものと信じます。

それでは、どうして日本人に独創性が欠除しているか？このことについていささか、私見を述べさせていただきます。しばしば、私は“教育有害論”を称えています。それはこういう事です。

Bringing-up＝保育, Teaching＝教育, Education＝？このように欧米においては、訓練の段階をちゃんと三つに分けて、“しつけること”“教え込むこと”および“能力をひき出す事”と区別しています。

これに対して、我国では、幼稚園から大学院まで一貫して“教育”だけではないでしょうか？つまりEducation という概念が欠除しているわけです。この事が、日本人に独創性が少ない事の最大の原因だと思ふのです。諸君も幼ない時から現在まで、いくつかの学校を通して来たわけですが、どういう訓練を受けて来たかをよく振り返ってみて下さい。恐らく、“教育”ばかりで、“Education”で成績をつけられたことはなかったでしょう。具体的に言うと、我国では、先生が問題を与えて、これを早く手際よく解く人が秀才と言われていると思います。つまり日本の秀才は問題の上手な解き屋に過ぎない。こういう問題を解く訓練ばかりしていて、独創性を発揮する訓練は、ほとんどしていないのが、日本の現状だと思います。

では、どうしたら良いか？残念ながら、諸君、諸君君はすでに“教育”の害を被っている事はほぼ間違い無いのであるから、せめてこれからは self-education をする外無いのでは無いかというのが、私の考えです。具体的には、修士の研究課題も博士の研究課題も自分で、探し求めて、専門の先生に御指導を願うということから始める外ないのでは無からうかと思うのです。先生から研究課題をいただくということは大変有がたいようですが、これは、独創性の訓練という立場からはまったく意味をなさないことになってしまいました。

さて、独創の人間の性格を少し考えて見ましょう。

①極めて個性的であること。（他人の意見から独立していること）しかも協調的であれば更によい。

②考え方が自由闊達であること。規則などに縛られないこと。石頭であつてはどうにもならない

③ Phantasie-reich であること。現実の枠内にだけいるのではどうにもならない。などなど、

さらに、博士課程に進学する諸君に対しての注意であります。課程博士に対して世間の評価が必ずしも良く無い事です。この事は、やりこなし得る仕事の範囲が極めて広くあるべき博士が、むしろ修士よりも狭いという点にあるようであります。この点、博士課程に進学する諸君の猛省を促したいと思います。

以上、要するに、諸君に望みたいことは、諸君一人一人が、“人間尊重”を基盤とし、社会に奉任する立派な人物として成長し、又世界的レベルの立派な学問的業績を創造してほしいということです。

諸君ともども、生命ある限り、大いに勉強しようではありませんか。



再度ヨーロッパを 訪れて

高 木 ミ エ

昨年7月6日、二ヶ月の予定で、私はヨーロッパへの旅に出た。羽田からの道連れは若い学生さん達である。いまから十数年前、私共がきびしい経済状態にあってほんの僅かのドルを持って研究のため羽田を出発した時のあの気負った気持ちなど、こゝにはない。

私は1961年夏、英国ブリストル大学物理教室での研究のため、一家で英国に滞在したあの当時を回想する。

当時、ロンドン以外の街で、日本人、まして子供連れの日本人家族を見かけることは大変珍らしく、人口50万のブリストルの街も例外ではなかった。そんなブリストルで、ある日娘の通う小学校の同級生の兄でオックスフォード大学の学生が訪ねて来た。彼は、大学で東洋文学を専攻しているとのこと。初め中国文学からスタートし、現在は日本文学に興味をもっていて、“坊ちゃん”や“金閣寺”そして“俳句第二芸術論”も興味深く読んだとのこと。遂に“わび”だのということになり、日本文化もこゝまで理解されているのかと驚いたものであった。

大学の物理教室の仲間も、学問を通じ、あるいは直接日本を訪れたりして、近代日本を理解している人が多かった。またその博学によって人を驚かすのが趣味の連中もいて、桜の話をするれば「それはどの種類の桜か」ときき、「あそこに Japonica が咲いている」というので行ってみると、ぼけの大木がある。ひそかに調べてみると、たしかに、ぼけの学名は Japonica で日本が“原産”であつたりして驚かされたこともある。

しかし他方、一般の市民にとって、日本は Far East の国でした。娘達が通学している小学校の PTA から、主人に日本に関する話をしてほしいとの依頼があった。「日本の歴史について」という、いささか高級な話の後で、一人の婦人が気兼ねそうに質問する。「日本の

家の戸は、木と紙で出来ていると聞かす、雨でも大丈夫なのか」と。

1962年の春は、イースターの休暇を利用して、コンウォール地方への小旅行に出た。すみれと水仙が咲き乱れる田舎道を行くと、南イングランド特有のゆるやかな起伏は、やがて海岸で終り、古い漁村に出た。このあたりは船の遭難の多いところであらうか、救助艇の格納庫があつたりして、物珍らしげにブラブラ歩いて行くと、我々の後に数人の子供がぞろぞろついてくる。とうとう我慢できなくなって、その中のかしこそうな女の子が聞いた。“Where are you from?” 私は答えた。“We are from Japan.” その女の子は感にたえたように云った。“We have never seen Chinese who came from Japan.” と。

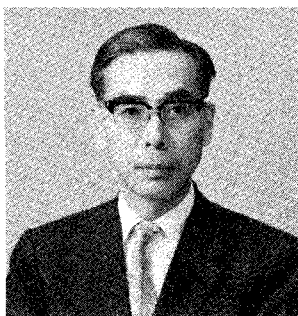
あれから15年の歳月が流れ、多数の日本人観光客と一緒に私はパリに着いた。街には日本語の買物案内があり、日本人店員もいる。パリからロンドンそして再びブリストル大学を訪れる。大学での仕事を済ませ、二つの学会に出席し、再びパリに戻り、パリ大学勤務の友人一家が南仏に避暑に出掛けた留守宅を宿として、数日を過した。パリ大学の結晶研究所には我々と専門の近い方が多く、最近数年間に日本における国際会議に出席して日本の実状はよく理解されているように見えた。

帰国の日が来て、飛行場まで送らうと友人が来て下さった。家の鍵の返却と、二三の伝言とを頼もうとするが、管理人には話が通じない。そこで友人が話をつけて呉れたが、彼は笑をこらえながら戻って来た。彼の云うには、あの管理人が「お前はあの人達と何語で話すのか？」と聞くので、「英語で話す」と答えたところ、「あのベトナム人は英語を話すのか」と大変感心している、という。

この15年間の国際交流によっても、フランスにとって、東洋とはやはりベトナムであるのであろうか。そして日本は依然として Far East にあるのであろうか。

(理学部 物理学科
一般教育等教授)





教務部長を お引き受けして

竹 中 俊 夫

この度全く計らずも岡崎光雄先生の後任として教務部長に任命され、その責任の重大さを痛感致しております。私は昭和25年に本学を卒業して以来、最早二十数年になりますが、この間歴代の教務部長になられた諸先生のご人格・ご識見を思い出しますと、この教務部長という仕事が私に務まるかどうか本当にちゅうちょ致しました。日頃敬服する先輩教授や親しい同僚達の励ましがあられ、また副部長・補佐の先生方のご援助が戴けるということでお引き受け致した次第であります。誠心誠意全力を尽くしたいと思います。

ご承知のごとく、昭和42年度以来本学は理学部・工学部に分離運営されておりますが、「全学一本の教育」というよい伝統が受け断がれております。教務部は、それ以前と同じ体制で業務を行い、両学部の教育に関

する事柄の連絡調整の役割を果して参りましたが、学部教育の実施については、いまだにいろいろ問題があるようであります。また昭和50年度より総合理工学研究科が発足致し、年次と共に拡充がなされ、これに伴う教務事務の問題や、理工学研究科の運営にかかわる教務事務組織の検討など問題が山積しております。要は学生諸君が気持ちよく勉学や課外活動にいそしめる体制や雰囲気づくりを全学教職員と一緒に頑張ってさらに進めることでありましょう。

大学の立派さを判定する物指しとして、歴史が古いこと、建物が新しく設備がよいこと、教官・事務職員が協力して研究・教育・事務を遂行すること、そして将来性ある若い学生が年々歳歳入学し卒業し、いつも新鮮な活気が全キャンパスにあふれていることをあげることができましょう。工大は立派な先輩教職員・卒業生のお蔭で今日の発展をみたのでありますが、私共は感謝を捧げると共に誇りを持ち、また前進するために全学協力し努力を積み重ねなければならないと思います。

全学の教職員の皆様にご援助とご協力を心よりお願い申し上げます。

新入生オリエンテーション 及びセミナー

新入生オリエンテーション

4月6日(火)午前10時から講堂において学部の入学式が行われるが、引き続き11時から新入生に対する教務部関係の総合オリエンテーションが実施され、教務・厚生補導業務、学習計画等について説明が行われる。7日(水)は午前9時10分～12時までの間、図書館関係・一般教育(共通)関係オリエンテーションが行われ、13時から各分類に分かれて、健康調査及び分類オリエンテーションが実施されることになっている。

セミナー

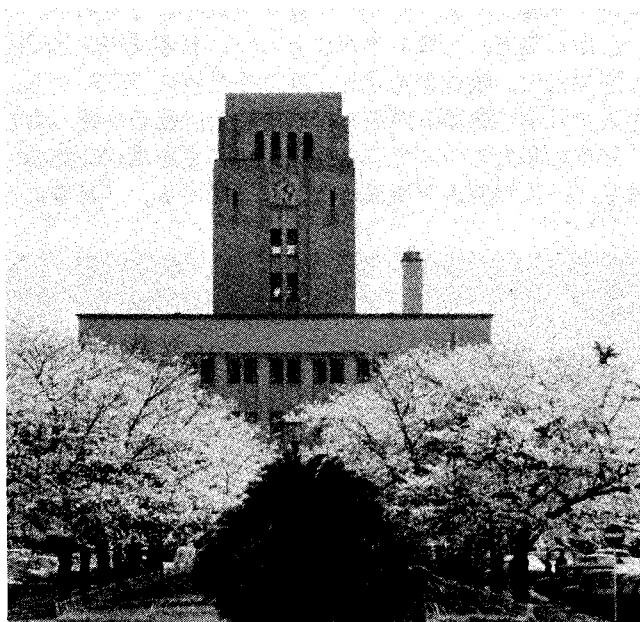
“新入生と教職員とが共同生活をし、類における教育と専門別学問分野に関するセミナーを行ない、且つ学習指導など大学生活について懇談する”ことを目的として、昭和47年度から実施されたこのセミナーは、今年度で4回目を迎えるが、毎年新入生にそれなりの効果を及ぼし、所期の目的を達成し、効果を上げている。

今年度も5類以外の各類は4月8日(木)・9日(金)の両日にまた5類は4月9日(金)・10日(土)の両日にわたる日程で実施されることになった。各類毎に貸切バスを利用して、実施場所へ向って出発することになっているが、新入生と教職員の親睦をかねたこのセミナーは、目的達成と同時に新入生のこれから

の大学生活に、多大の良き効果を及ぼすことであらう。

なお、各類の宿泊先は次のとおりである。

- 1類 箱根高原ホテル(神奈川県足柄下郡箱根町)
- 2類 伊豆富士見ホテル(静岡県田方郡菰山町)
- 3類 九十九里センター(千葉県山武郡九十九里町)
- 4類 富士箱根ランド研修センタ(静岡県田方郡函南町)
- 5類 館山寺荘(静岡県浜松市呉松町)
- 6類 飯岡荘(千葉県海上郡飯岡町萩園)



教務部長 竹中俊夫 (工学部教授)
 教務副部長 黒正清治 (")
 " 日野太郎 (工学部教授)
 " 神馬 敬 (工学部助教授)
 教務部次長 大原寿仲
 教務課長 川代重富
 厚生課長 北田 務



昭和51年度 類主任

1類 市村 浩 教授 4類 青木 弘 教授
 2類 長倉繁磨 教授 5類 飯島泰蔵 教授
 3類 河合 徹 教授 6類 吉岡 丹 教授

昭和51年度 類・クラス担任一覧表

学部	類	クラス名	小クラス名	クラス担任	クラス担当助言教官
理 学 部	第1類	1-1	1-1A	平沢義一教授(数)	平沢義一 教授(数)
			1-1B		河村一知助教授(")
		1-2	1-2A	森 雄次教授(化)	森 雄次 教授(化)
			1-2B		篠野嘉彦助教授(")
		1-3	1-3A	久武和夫教授(応物)	久武和夫 教授(応物)
			1-3B		比企能夫助教授(")
		1-4	1-4A	鈴木光男教授(情)	鈴木光男 教授(情報)
			1-4B		藤井光昭助教授(")
	第2類	2-1		入戸野修 助教授	春山志郎 教授
		2-2		福田敦夫 助教授	福田敦夫助教授
		2-3		水谷惟恭 助教授	加藤誠軌 教授
工 学 部	第3類	3-1		伊藤二郎 教授	小川浩平 助教授
		3-2		寺沢誠司 教授	中井 武 助教授
		3-3		西岡篤夫 教授	福富 兀 助教授
		3-4		植松市太郎 教授	中條利一郎 助教授
	第4類	4-1		富田幸雄 教授	松本浩之 助教授
		4-2		神馬 敬 教授	西本 廉 教授
		4-3		永井文雄助教授	黒崎晏夫 助教授
		4-4		中沢 一 教授	大竹一友 助教授
		4-5		寺野寿郎 教授	森永智昭 助教授
		4-6		黒沢一清 助教授	秋庭雅夫 助教授
	第5類	5-1		梶谷洋司 助教授(電気・電子)	山口昌一郎 教授(電気・電子)
		5-2		"	"
		5-3		岸 源也 教授(物理情報)	末松安晴 教授(電子物理)
		5-4		"	"
		5-5		長谷川健介 教授(制御)	末武国弘 教授(電子物理)
		5-6		"	"
	第6類	6-1		山口柏樹 教授(土木)	森地茂助教授(土木工学科)
		6-2		吉岡 丹 教授(建築)	鈴木敏郎助教授(建築学科)
		6-3		鈴木忠義 教授(社工)	中村良大助教授(社会工学科)

奨学生と奨学金

本学で取扱っている育英奨学に関する現況及び奨学生の募集などについて、お知らせしますから参考にしてください。なお、これら奨学金についての相談相手をつとめるのが教務部厚生課(本館地階62号)です。

(1) 育英団体にはどんな種類があるか

育英奨学団体は特殊法人、公法人(地方公共団体)、財団法人、会社関係の4種類に大別され、奨学金の種類は貸費又は給費です。

その内訳は表1のとおりです。

表 1

(51.3.1 現在)

	① 特殊法人 (日本育英会)	② 地方公共 団 体	③ 財団法人	④ 会社関係	計
貸 費	1	16	16	0	33
給 費	0	1	14	1	16
計	1	17	30	1	49

(注)

①特殊法人——日本育英会(国家的育英事業機関)

②公法人(地方公共団体)——都道府県市区町村等

③財団法人——純然たる奨学団体及び会社に関連はあるが資金は独立している財団組織の奨学団体

④会社関係——会社自体の奨学制度

(2) 奨学生は現在何人いるか

奨学生を学部、大学院(修士課程・博士課程)と育英団体ごとに大別すると表2になります。

表 2

	学 部	大 学 院		合 計
		(修士)	(博士)	
日 本 育 英 会 (一般)	246	435	282	963
(特別)	492	—	—	492
地 方 公 共 団 体	33	3	0	36
財 団 法 人	64	92	2	158
会 社 関 係	6	2	0	8
合 計	841	532	284	1,657
学 生 数	3,367	1,121	342	4,830
日本育英会奨学生の比率 (%)	21.8	38.8	82.4	30.0
全奨学生の比率 (%)	24.9	47.4	83.0	34.2

(学生数は 50.5.1.現在の在籍数)

(3) 出願数と採用数はどうか

日本育英会奨学金について出願数と採用数を年度別に示すと表3のようになります。

表 3

	昭和50年度		昭和49年度		昭和48年度	
	出願数	採用数 %	出願数	採用数 %	出願数	採用数 %
学部1年 一般	129	37	134	45	193	57
特別	69(74)	90	67(44)	84	78(37)	70
学部2年 一般	31	8	12	0	30	4
特別	48	7	75	9	53	12
学部3年 一般	19	8	12	7	9	5
特別	42	0	92	4	56	0
学部4年 一般	4	2	2	2	0	0
計	183	131(74)	160	134(44)	232	156(37)
大学院 修士	354	222	384	213	341	200
博士	62	100	55	99	59	100

(注) ()内の数は高校での予約採用者数で外数である。

(4) 奨学金の月額はいくらか

奨学金の貸与月額は、6,000円から48,000円まで多種あり、日本育英会だけでも表4のとおり入学年度別、奨学生種別等により10種類におよび、さらにその他育英会を加えると20種類余になります。

(5) 募集および手続はいつか

(イ) 本年度の日本育英会関係では次のとおりです。

(ロ) 日本育英会以外の団体は、その採用条件等もいろいろですが、一般的にいえることは、地方公共団体はその地方出身者が条件であり、財団法人は家計より学力を評価する傾向があります。会社関係では、卒業後の就職を強く希望している点が共通しています。

表 4

	月 額		該当入学年度
	一般	特別	
学 部	一般	6,000	50年度以前入学者
		11,000	51年度入学者
	特別	自宅 6,000	46年度入学者
		自宅外 10,000	
		自宅 8,000	47~50年度入学者
		自宅外 12,000	
大 学 院	修士	13,000	51年度入学者
		自宅外 18,000	
大 学 院	修士	38,000	
	博士	48,000	

募集及び手続はいつか

区 分		募 集 及 び 手 続	採 否 決 定
日 学 部	特奨・予約進学者(進学届)	4月上旬	5月上旬
	一 般 最 高 学 年	4月上旬	6月下旬
	特奨・在学採用分(全学年)	4月上旬	7月下旬
	一般1次(1・2・3年)	4月上旬	7月下旬
	一般2次(1年)	10月上旬	1月中旬
英 大 学 院	予約 学内選考	7月上旬	4月下旬(第1回)
	予約 一般選考	10月上旬	6月下旬(第2回)
	博 士	3月上旬	5月上旬(第1回)
			6月下旬(第2回)

本学では、学部学生を対象とする育英団体のうち、就職を義務づける条件の団体には原則として推せんを見合せています。なお、募集の時期は一定していませんが、やはり年度当初に集中するようです。

また、本学で交付した「学生便覧」に、地方公共団体等の主なものを記載してありますから利用してください。なお、募集等については、その都度掲示などにより通知します。

(教務部 厚生課)

? 新入生の皆様入学おめでとうございます。

新学期に当り、今月は学生数について

1. 本学の学生総数は何名でしょうか。

2. また学部、大学院別の内訳はどうなっているのでしょうか。 ?

学生相談室だより

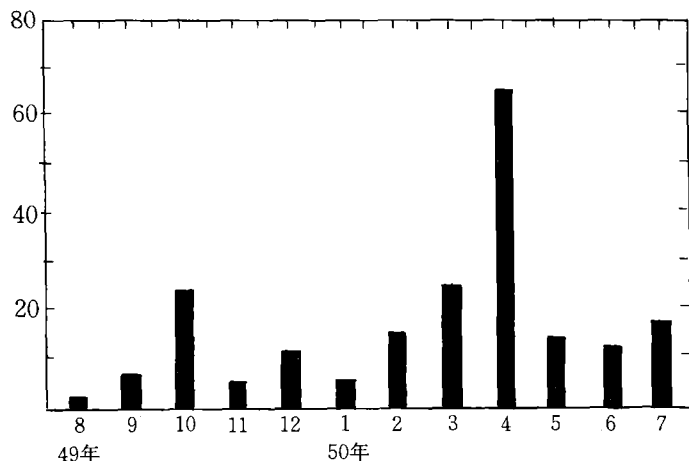
学生相談室は“よろず相談所”です。何でも気楽に相談に来てください。1人であれこれ考え思い悩んでいるより、信頼できる人に相談してみるのもいいのではないのでしょうか。話し合える友人、話を聞いてくれる先生や先輩のある人はい、のですが、誰に相談していいのかかわからないとき、友人に聞かれたくない悩みなどのあるとき、もうだめだとあきらめる前に一度相談室の扉をたたいてください。相談室は皆さんからもちかけられた相談ごとにすぐ答えられることはその場で答えますし、他の部に問い合わせる必要があればすぐ問い合わせ返事をするようにしています。場合によっては本人に代って問題の解決に当ることもあります。しかし、相談室はあくまでも皆さんにデーターを提供し、助言するところで、それらのデーター、助言にもとづいて自分で考え、最後の判断はそれぞれ自分でしてください。

参考までに昭和49年8月から1年間の日常の相談件数や内容の統計をお知らせします。

図1をごらんいただいたと思いますが、月別に見ると3、4、5月に来談者が集中しています。これは新年度ということで学内事情不案内のための質問や不安等が大部分です。次に前期試験の前後9、10、11月に来談者が多くなっています。学生にとって日頃の不安、不満といった悩みが出てくるのかも知れません。また逆にゆっくり時間をかけて相談したいときは、この時期をはずせば便利といえるでしょう。

では次に相談内容の内訳ですが、矢張り学業関係が多数を占めていることがよくお判りと思います。表1をもう少し具体的に記述して見ると次のようになります。

図1 学生相談室、月別来談者数(49年8月～50年7月)



内容別・月別来談者(延数)状況内訳表

表 1

(48年8月～49年7月)

	(48年)					(49年)							計
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
学 業	1	1	11	2	5	4	5	13	42	3	3	2	92
転 科(類)		1	2		4		3	3	4	2	3	3	25
課 外 活 動									1	2		3	6
将来の方針		1	3	1	1		5	3	1	3	2	1	21
生 活			2	2					5	1			10
住 居													—
そ の 他		3	4		1	1	2	5	8	3	3	8	38
月別合計	1	6	22	5	11	5	15	24	61	14	11	17	192

内容別相談例

(学 業)

名前のとおり、学習に沿って起きる疑問、不安、学習計画、その変更といった相談内容が大部分を占めていて、特に新入生にとっては、すべて勝手が違う環境なので、学習の案内から始まり担当窓口、学内案内に至るまで扱うことになります。これが2年次以上になると、転類、転学科の是非、専攻学科の適不適で迷っている、将来との関連で進路変更を考えたい、学科未所属の学習計画とは、留年の良し悪しについて、学士再入学といった問題が多くなって来ます。

(転類・転学科)

学業の領域と重なって出てくる問題ですが転類の代表的な例で言えば、第二志望で合格したが、なんとしても当初の第一志望に転類したい。転学科については、学科に所属したがどうしてもその学科に興味が出ないので考え直したい。将来のことを考えて転学科したい。転学科出来る条件とは何か、転学科が不可能ならせめて好きな学科で卒論につきたいなど、いった例が多い。

(課外活動)

勉強も大切がだ、課外活動も大いにやりたいと思っているが両立できるだろうか。同好会を作ったが部屋が欲しい。といった相談があった。

(将来の方針)

これに該当するものは、学習を通じた生き方、進み方との絡みで出てくるケースで、人生問題とも言える部分である。それだけに来談者にとっては、大きな問題を抱えていると言えますし、内容についても進路変更、退学、就職、進学の再検討などいずれも真に生きたいと模索しているのかよく判る部分です。

(生 活)

父が死亡したため経済的に苦しいので奨学金をもらいたい種類、手続、方法について知りたい。またアルバイトの是非など日常生活そのものを訴えています。

(その他)

今迄の内容に属さない部分がこれにあてはまるのですが、持ち込まれる問題は種々雑多で全述することは不可能である。簡単なのは、大学に関する案内、情報などを求めて相談にくる者が多い。その他の例としては在籍のまゝ他大学を受験することの可否。家族から息子の登校拒否について。休学して外国旅行をしたいがその前にアルバイトをして旅費を作りたいと思っている等、とにかくバラエティに富むケースがこの部分でしょう。

以上、概要ではありますが、相談内容を記述いたしました。しかし実際の相談では、こんなに単純な形で内容別に分けられるものではありません。相談の過程で行きつもどりつしたり種々の面と絡みあったりして進行するものですから、出された相談内容と全く異った結果が出ることもしばしばあります。従って出された問題の重さによって、便宜上いづれかの内容に大別しているのだと理解していただければ幸いです。

(学生相談室長 平井 聖)

学生教育研究災害保険について

学生教育研究災害傷害保険は、学生の災害に対する全国的規模の互助共済制度として、既存の本学学生災害互助会と別に昭和51年度から新しく発足したもので、財団法人学徒援護会が保険契約者（本学は、賛助会員大学として当該事務を担当）となり、損害保険会社との間に一括契約される傷害保険である。

1. 対象

学生、研究生及び聴講生

2. 加入の単位及び申し込み

学部、大学院研究科を単位とし、本学においてとりまとめて申し込む。

3. 保険金が支払われる場合

正課中に生じた急激かつ偶然な外来の事故による身体の傷害

4. 保険金の種類及び額

(1) 死亡保険金（事故の日から180日以内に死亡したとき） 1,000万円

(2) 後遺障害保険金（事故の日から180日以内に後遺障害が生じたとき）

その程度に応じて 45万円～1,500万円

(3) 医療保険金（医師の治療を受けたとき）

治療期間に応じて 7千円～15万円

5. 保険金が支払われない場合

故意、闘争行為、犯罪行為、地震、風水害、放射線等による傷害及び疾病

6. 保険料（掛金）

新入学者は、入学手続時に、次の金額を一括して納入する。

学 部	4 年分	2,900円
大学院（修士）	2 "	1,550円
" （博士）	3 "	2,250円
研究生・聴講生	1 "	850円

7. 在学生の加入申込方法

受付期間：原則として4月1日～4月30日及び10月1日～10月31日

保険料（掛金）：残存在学年数に相当する金額

申込先：教務部厚生課保健掛（保健管理センター内）

内)

不慮の災害に対する万全の備えのために、学生・研究生・聴講生全員が積極的に加入されるように強く望まれている。

なお、本学学生災害互助会は、今後も従来どおり業務を行う。

問い合わせは、教務部厚生課保健掛（保健管理センター内 Tel. 2057）へ

外国人招へい研究員 (昭和50年4月1日～昭和51年3月1日現在)

氏 名	国 籍	本国における現職名	専 門 分 野	本学における研究・指導テーマ	本学(又は国内)における研究期間	所属研究室
D. Schildknecht	西ドイツ	ドイツ電子シンクロトロン研究所 助教授	高エネルギー物理学	高エネルギーにおける光子と核子の相互作用	50.7.17～ 50.8.15	理学部助教授 磯 親
Yoshimitsu Amenomiya	カナダ	カナダ国立研究所 研究員	触 媒 化 学	昇温脱離法の触媒研究の応用	50.10.6～ 50.12.5	工学部教授 越後悦郎
J. H. Petropoulos	ギリシア	ギリシア原子力研究センター 研究員	高分子輸送現象 不均質反応速度	不均質媒体中の拡散	50.4.1～ 50.6.30	工学部教授 飯島俊郎
Avthur G. Milnes	イギリス	カーネギーメロン大学 教 授	固体電子工学	半導体ヘテロ接合研究	50.5.14～ 50.7.12	工学部教授 酒井善雄
Andrzej Lichtarowicz	イギリス	ノッテンガム大学 講 師	油 圧 制 御	流体動力制御	50.7.14～ 50.9.9	工学部教授 竹中俊夫
Algis P. Kabaila	オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学 助教授	構 造 工 学	構造力学における非線型解析法に関する研究	51.1.8～ 51.3.31	工学部助教授 吉田 裕
Francis Michael DWYER	アメリカ	ペンシルバニア州立大学 助教授	視 聴 覚 教 育 方 法	学生にフィードバックを与える自動成績評価システムの研究	50.5.17～ 50.6.14	工学部教授 末式国弘
Paul Hugh Emmett	アメリカ	ポートランド州立大学 教 授	触 媒 反 応	窒素分子活性化触媒作用	50.10.1～ 50.11.29	資源部教授 尾崎 幸
Joseph A. Pask	アメリカ	カルフォルニア大学 教 授	窯 業 工 学	セラミック材料系における安定 準安定平衡と固相焼結	50.6.15～ 50.7.12	工材部教授 宗宮重行
Yizhak Marcus	イスラエル	ヘブライ大学 教 授	無 機 化 学 核 分 析 化 学	溶液化学とその同位体効果の研究	50.7.30～ 50.10.27	原子炉部教授 垣花秀武
Cornides Istvan	ハンガリー	ハンガリー鉱山研究所 研究員	同位元素 地球化学 質量分析の応用	同位体地球化学	50.6. ～ 51.5	理学部助教授 松尾植二

外国人受託研修員

氏 名	国 籍	本国における現職名	専 門 分 野	本学における研究・指導テーマ	本学(又は国内)における研究期間	所属研究室
Bong Suk Skin	韓 国	金北大学 教 授	金 属 細 工	金属高温切削	49.5.20～ 50.5.19	工学部教授 益子正己
Laszlo Wojnarovits	ハンガリー	ハンガリー科学アカデミー 同位元素研究所 研究員	放 射 線 化 学	放射線初期過程研究	50.10.13～ 51.6.29	理学部助教授 佐藤 伸
Klmho Joong	韓 国	ソウル国立大学 助 手	航 空 工 学	機 械 運 用	50.12.10～ 51.1.8	工学部教授 富田幸雄
Lee Tai-yung	韓 国	ソウル国立大学 技 官	機 械 工 学	機 械 運 用	50.12.10～ 51.1.8	工学部教授 西本 廉

大学院入学試験合格者決定

——昭和51年度——

大学院修士課程の入試合格者は昨年11月1日(木)にまた博士課程の合格者は3月19日(金)にそれぞれ発表された。

修士課程については既にクロニクル No.74 にお知らせしたように、理工学研究科 425名、総合理工学研究科 232名、計 657名の合格者が決定している。

博士課程については学内での進学者 124名、一般選考16名、計 140名の合格者が決定した。

学部入学試験合格者発表

——昭和51年度——

昭和51年度学部入学試験合格者が、去る3月19日(金)午後発表された。

今年度は、募集人員 774名に対し、4,165名(5.4倍)の応募者があり、本学の入学試験選抜方法により学力検査有資格者が選出され、2月20日(金)に3,924名が発表された。更に選抜された学力検査有資格者に対して、3月3日・4日の両日に亘って入学試験が実施され、最終合格者 794名がこのたび発表された。

なお、3月19日に発表された最終合格者(類別合格者)は次のとおりである。

	第1類	第2類	第3類	第4類	第5類	第6類	計
募集人員	153名	74名	118名	170名	146名	113名	774名
合格者数	156名	76名	121名	174名	149名	118名	794名
志願者数	943名	207名	381名	894名	970名	764名	4,165
倍 率	6.1	2.7	3.1	5.1	6.3	6.5	4,165名

工学部附属高等学校専攻科志願者第二次募集

——昭和51年度——

専攻科では、去る3月16日(火)、18日(木)に第一次募集応募者に対する試験が行なわれた。

機械科、電気科、工業化学科については各学科とも若干名ずつの第二次募集が行なわれる。

入学願書受付：4月5日(月)～4月7日(水)

午後4時～7時迄高校事務室、
(郵送の場合は7日(水)必着)

試験：書類選考および面接試験(4月8日(木)午後6～9時)による。

なお合格者は4月9日(金)午後6時高校で掲示発表される。

詳細は付属高校事務室にお問合せ下さい。

昭和50年度

学部・大学院授業日程

前学期

4月6日(火)	学部入学式
4月7日(水)～4月10日(土)	学部新入生オリエンテーション 〔8日(木) 9日(金)：新入生セミナー〕
4月10日(土)	大学院入学式
4月12日(月)～7月10日(土)	授業13週
7月12日(月)～9月4日(土)	夏休8週
9月6日(月)～9月18日(土)	授業2週
9月20日(月)～9月30日(木)	試験1週3日
10月1日(金)～10月9日(土)	秋休1週2日

後学期

10月12日(火)～12月25日(土)	授業10週6日
12月27日(月)～1月8日(土)	冬休2週
1月10日(月)～2月9日(水)	授業4週3日
2月10日(木)	補講日
2月12日(土)～2月25日(金)	試験2週
2月26日(土)～	春 休
5月26日(水)	創立記念日
10月31日(日)～11月2日(火)	大学祭
3月26日(土)	卒業証書授与式 学位記授与式

- ? 1. 本年2月1日現在の学生総数は4,791名でした。
2. 学部 3,359名、大学院 1,432名 うち
修士課程 1,109名 博士課程 323名、
ただし上にあげた人数の中には研究生は含まれていません。 ?

編 集 後 記

- ◇ 新入生の皆さん入学おめでとうございます。
クロニクルでは毎月学内のニュース、お知らせなどを掲載して参ります。続けて御愛読下さい。
- ◇ 今月号は主として新入生の皆さんむけの記事を集めました。
- ◇ 4月から編集スタッフが変りますので、今後の新企画に御期待下さい。

東京工大クロニクル No.80

昭和51年4月5日

東京工業大学広報委員会 発行

東京都目黒区大岡山2-12-1

Tel. (726) 1111 内線 2032